

ドイツ青少年スポーツクラブ8人 北鷹高生と餅つき交流



餅つきを体験するドイツの
スポーツクラブメンバーら

ドイツの青少年スポーツクラブ「ドイツスポーツユースリーグ」の8人が北秋田市を訪れ、地域の自然や文化に触れた。

日本スポーツ少年団などが

1974年から毎年行っている「日独スポーツ少年団同時交流事業」の一環。今年は約100人が来日し、このうち北秋田市にはドイツ北部のシュレスウィヒ・ホルシュタイン州の体操グループの8人が8日から12日まで滞在した。9日には秋田北鷹高で餅つきを体験。きねと臼を使い、2人一組で息を合わせながら力強くついた。出来上がった

餅にあんこを付けて、談笑しながら味わった。「スポーツにおけるシェンダー平等」をテーマにしたディスカッションも行われ、生徒と意見交換した。

リズベト・クロウスキさん(16)は「温かく歓迎してもらえてうれしかった。餅つきはとても楽しく、初めての味でおいしかった」と笑顔を見せた。

一行は市内8家族に2泊のホームステイをし、旧阿仁鉱山外国人官舎・異人館や伊勢堂岱遺跡なども見学した。

(原田大生)